

第八調役

岡崎藤左衛門

第九普請役

益頭駿次郎

第十定役

上田友助

第十一定役

森 鉢太郎

第十二同心

齋藤大之進

第十三小人目付

高松彦三郎

第十四小人目付

山田八郎

第十五通詞

福地源一郎

第十六通詞

立 廣作

其外翻譯方醫療方兼帶之者兩人并醫師兩人其外使節等の

家來十一人贈物宰領方五人都合三十五人あり諸役の頭序等原文甚誤

り總て日本使節旅行入用を皆其土地くくよて賄ふより佛

蘭匹の巴^大勒^ス都許よて使節の入用日く凡四萬五千フランク

凡^四我^千三^兩程^八百より五萬フランク凡^五我^千一^兩程^三百位ありよ

一夫故佛蘭西人民後よて此入用を出す事を嫌ひけれど日

本人も甚ど氣の毒と思ふて先くよ足を進むる事を好まざ

りよし噂ありき

海牙よ到着せよより逗留中の事

第十二時頃鹿特堤より日本の使節一時半許鹿特堤よ留る

べけれど第一時より第二時の間よて海牙の都よ到るべし

といふ知らせありとり夫也へ海牙よても追くよ其待請の
用意をあして問屋場の前よ左の如く書付とる幟を立てと
り

和蘭の都よて日本尊客の爲よ謹で之を立て候

其後直よ都府年寄役饗應役并評議役等諸人問屋場よ集り
其外海軍掛執政都府の軍奉行並物頭ホルブレニキとい
へる人其外政事掛并軍事掛の諸人等も集れり○使節同勢
の通行すべき道筋よモグレナデール名備のバタイロン四

隊と並よヤーゲルといへる隊備へヒイーゲンスプレイン
と云へる處よモダラゴントル名備のレスカドロン四隊備
へとり○其道筋の飾り立實よ善美を盡せしゆへよ其見物
人夥しくベルレヒエと云へる旅館迄を實よ寸隙の地もあ
りり程ありき○使節の鹿特堤より來る事遅刻せしゆへ
よや見物の人彌増よふへて其羣集混雜云ん方ぞあうりけ
り○其後鹿特堤より海牙の問屋支配役人よ使節の乗りと
る蒸氣車の出立せし故第三時の頃よモ海牙の都よ到着す
べしといふ相圖ありとり

斯て日本使節等海牙の問屋場よ到着し其前よて蒸氣車よ

り下り案内よつれて第一番の番部屋よ入りければ都府年寄役の者日本使節よ向て能こそ渡來よとりと挨拶し終りて市中總體の口上ありとて使節等海牙府よ在留するときと都下の者總體の大悦斜からずと申述べ和蘭の日本通詞此口上を日本語よ和解して使節等よ傳へければ第一番の使節其返答の爲よ丁寧よ腰を屈めたり

其後暫くありて使節等夫々乗車よ乗りたり○第一番の車よと都府の軍奉行并都府年寄役乗り其外の車よと役人等使節と共に乗りて丁寧ある取持をかり又其外の車よと使節よ從へる諸役人從僕等乗れり○夫より此行列ワーゲン

町左イ子町ホーグ町ブラーツランゲフェーフルベルクコルテネールホウト及びボスカント杯といへる處を通りて行きよ樂人組を其脇よ付て頻りよ悦もよき音樂をかり又道筋よと千萬の見物人群集して悦もよき聲を發して此行列を祝ひたり○日本人の珍よき顔色容貌よと實よ和蘭人一人も驚うざる者をかりり程かり但し又日本人の才智勝れよ事よと誰も能く氣附たり

諸其内よベルレヒユエといへる旅館よ著きたりゆへ役人等使節を案内して其館内よ通したり○其後役人を暫時其館内よ留り居たりが使節等一同今日の取持方の行届

きところを満足せし様子を見て其後此旅館を去りたり○殊
よ此旅館の飾り立如何よも結構美麗を盡してありしゆへ
日本人の満足斜あらざりき○此館内の尤も表立たる坐敷
を殊よ結構ふる者よて其飾立も一形ならず或も千萬種の
美花を以て飾り又も名人の作よて草花の彫物をかゝ加之
色々の旗幟等を立て其間の處よもオラニ家當時の和蘭
歴代の畫像を掛け其外廊下階子を勿論館舎の表構よ至る
迄残る處おく草花を以て飾り此表構の上よも日本と和蘭
の幟を翻しより○其外海牙よ來着より旅館よ入る迄の間
樂人組の者大鐘を打ち之よ合せて面白き歌を謡ふて祝し

より○行列の前後を警衛して旅館迄到りたる騎兵隊を使
節到着の後直よ歸り唯使節警衛の爲よ設けたる番兵隊の
こ此旅館よ留れり○英吉利佛蘭西等よても其饗應よ善美
を盡し日本人を悦ませし事數るぎりあるべけれども其
取持の深切よして實よ心底より出たる饗應といふを恐く
を我和蘭の如き處をあるべしと思はる

皆日本人此旅館よ着て二日の間休息をふし十七日我十五日
より諸處の表立たる場所を見物よ出たり其話次よ委し
十七日我十五日を和蘭王妃の誕生日あるゆへ球投遊びの場
所よて夥しき人集りて軍の狂言をふしよりし使節等も

乗車より乗りて其祝ひの場所を見物しり○此時騎兵隊使節等の嚮導とありて其旅館より出て此狂言終りて後又此使節等を引連れて本の旅館より歸れり○其次は使節等珍物奇器或は圖畫等を納めたる寶庫を見物せり○其暮方に至りて森林の中は暗夜も白晝と疑えり、程の萬燈をとどりブリーチンといふ人日本人を誘ひ萬人の集りたる天幕の内は導ひて見物せしめたり○日本人も此十七日を今日迄の中よて一番悦えしき日なりと云ひ又殊に好て婦女子と交り遊びて色々の物を取らへ杯しり○又其後再び萬燈を見物して本の旅館より歸りたり

十八日

我五月十一日

ニよて使節等二箇所の製造場を見物せり其

第一の製造場をアントハウエンといふ人の持場あり○此製造場の内よて諸處は日本人饗應の爲は色々の事を書付けたる者杯を置き又其外よて日本と和蘭の幟を立たり○諸使節等ペルススレイケントンクルキユルヒスミツレル及び都府平寄役等の案内よつれて此製造場より來りければ持主アントハウエン此輩を招待しり

此製造場の内よある住居家の高樓よて暫時休息あり日本
の茶かきを出せし後暫くありて重荷を揚る爲は鐵よて作
りたる桔槔ハチツルマを使節等に見物させ其外追々よ大なる鑄物部

屋よて日本人の感心する様ある事のみを見せたり○又小
き鑄物部屋よも使節を誘ひ行き謹んで日本人よ服すとい
ふ語并日本尊客の渡來を祝すと云ふ語を文字よ鑄出りと
りーの其手速ある事よて日本人一方からず膽をつぶし殊
よ桔槔の速うある働を見て其働く理かどを詳よ聞取り
故よ其驚き實よ尋常よえ見へさりけり

右様色の珍らしき物杯を見物させたる後又使節等を高
樓よ連行て此處よて暫時休息をさせたりーよ其時使節を
始め總勢の者共見物したる物の話をして皆褒めざる者を
あろりけり○其後此製造場よての取持頗る結構あるを謝

せんとして使節よ附添居たる和蘭の役人等其姓名并使節等
の姓名をエントハウフエンの内室の所持したる手扣帳よ
書付けたり

此事終りて始め入來りたる時分の通りよ頗る結構ある取
扱を受けて此製造場を去りたり○偕今此製造場を去る時
分使節等并附添居たる役人共皆一同よ取持の深切よ行届
きたる禮を丁寧よ述べたり

又第二番の製造場を尤大ある者よて其名をプリンスファ
ンオラニーと云へり○此製造場よても使節等其門口迄到
り一時分此持主ホツといふ人とクーエルデンといふ人其

所迄迎よ出とり○偕其處より此持主と此場所の造營方の
者とよて使節等を誘ふて道具仕掛けの設けある部屋よ入
れとり○此處よ入り廻り廊下を通りて其所よ於て廻り板
の上よて橋車の心木を造るを見て使節等大よ之よ感心し
其後又第二番の蒸氣道具のある處よ到りて其道具を見物
しとり○偕其次よ鑄物場よ到りし小此處よて鑄物師使節
等の見る前よて速よ謹て日本人よ服すといふ語を文字よ
鑄出しとり○偕其文字を鑄出しとり節其仕事をかとりとり
鑄物師等皆大悦の模様よてフーラフーラ祝ひ言と祝ひよ
り○又其後第三番の蒸氣道具及び鐵道よ設け置く橋を造
るを見物し又其蒸氣仕掛の道具等を以て頗る重き荷物等
を速よ二階三階等よ上るを見て使節等殊よ驚き感しとり
模様ありき○其外又使節等の見る前よて莫大ある車の心
木を蒸氣道具よて造作もかく此所コカシマ彼所よ動くし或は結構
よて高く引上げ杯ふして見物せしめとり○斯て色々の日
物も濟しうを使節等も此製造場の持主よ丁寧よ禮を述べ
其姓名を外國人姓名録といへる帳面よ記し附添ふとり役
人等此口上を和蘭語よ和解して持主よ傳けれを職人等一
同よ聲を揃て能く參られて大悦かりと返答するを聞つゝ
使節等一同此處を出とり

十九日我五月廿二日も使節等大砲の鑄造場を見物より行きければ此處よても軍事掛り執政役使節等を招待し夫より鑄造場より連れ行き一挺の古き大砲を出して之を鎔く。夫より青銅を加へて直様より一挺の新砲を鑄て見せたり俱箇様の事を今迄外國よても數度仕損たりしが和蘭よても聊も仕損ずる事なく十分能く出來たり。其外日本人を引連れて此製造場中残る處なく見物させしむる使節等始一同皆満足せし趣を告げ厚く禮を述て去れり

其次よ使節等ミーリングといへる人の持つる石版場を見物より行き此處よても暫く留り居て圖畫を石板より押すを見れば圖畫の彩り方種々の色一時よ出來るを見て大よ感心し

より
其後も仍日本人石板の道具仕掛を見物せんことを懇望せしむへ色々の道具を十分よ見せしむる使節等も大よ満足しこの模様よても其中よても三四人の者紙を取り各自分々の書判を書きしむへ夫を直様日本の紙より押して其當人等よ與へたり。斯くて日本人も其満足一方おらずと見へ再三禮を述て遂よ此場を出たり
晝後よ至りて使節等又地形寫し取場より行きしよ此處よても軍事掛り執政役の者此輩を招待して色々の地形を寫し

取る模様を見物させたり

其外又諸處を見物せんとしてバールマンといふ人の持てる諸品の製造場ベーといふ人の持てる時計の製造場或はメーラスといふ人の持てる燈籠の製造場並はニーツホフといへる人の持場ある書物賣買場等も行きて色々の珍物珍器を見物せり

其後使節兩人並は夫は從へる輩饗應掛り役人よ誘われてセーヌニンゲンといふ浴場に行き又ゼーレストと名付けたる館舎に行きしふ此處よても日本人の來るを見て直様日本の幟を立とり斯て此處よ暫く留り休息をおして和蘭

の海魚を見物せし後パトボイスといふ處を通りて海牙の都に歸りたり

使節等鹿特堤を見物せし事

海牙より便りありて策六月廿日我五月廿三日日本人鹿特堤を見物に參るべしと告げ來りしうむ其當日よは早朝より日本人を見物せんとして悦び勇んで來る者其數を知らず實は其群集云ん方ぞかりけり○右様は和蘭人等日本人の渡來せしを悦んで勇み立つ所謂を歐羅巴ウロツバは數多の強國ありと雖とも二百年來日本人と交りを結び居る國を和蘭の外一國もふきが故あるべし○問屋場の所よは日本と和蘭の

幟を立置けれど其處よも尤多く的人群集して恰も敵軍の
十重二十重の圍みとるう如く見へたり○又日本人の通る
べき道筋よも都府年寄役并奉行評議役或も鐵道掛り諸役
人其外今度饗應の事よ預る諸人悉く集りたり○然るは第
十時の頃兼て國王より日本人案内方を云付られとる役人
共使節三人並よ夫よ從へる同勢の内十三人の者共を誘ひ
尋常の蒸氣車よ乗りて海牙より來れり但し此車を王家所
持の車あり○斯て一同の者直様蒸氣車より下りけれど此
鹿特堤支配の諸役人使節等能くことを參られたりといふ挨
拶を述へ且都府年寄役を總代として和蘭と日本を舊來交

り厚き國かれむ今日使節等此處よ參られとるを此地の者
一同殊よ大悦よ堪へざる事ありといふ事を述べ通詞の者
此口上を日本語よ和解して使節等よ傳へければ上席の使
節竹内下野守といへる者直様忝く存ると云ふ返答を丁寧
よかゝり○儲此挨拶も濟けれど都府年寄役も使節等の
案内とありて使節等を兼て用意し置きとる乗車よ乗せこ
ールンケルといふ處より鹿特堤の市中を通りてボーム
ピーといふ處よ到り和蘭蒸氣船仲間の會所の前ある濱邊
よ兼て日本人を乗する爲よ用意し置きとる和蘭の船貸仲
間の持てるヨインフツレといへる船よ使節等を乗せて直